

所員活動一覧（二〇一三年四月一日～九月三〇日）

荒木 浩

●著書

〔共著〕小峯和明編著『日本文学史 古代・中世編』第Ⅱ部中世の文学 第九章説話集と法語 ミネルヴァ書房 二〇一三年五月

『デジタル人文学のすすめ』（楊曉捷・小松和彦と共編）勉誠出版 二〇一三年八月

●論文

〔知識集積の場―中世への表徴として―〕荊部直・黒住真・佐藤弘夫・末木文美士編『岩波講座 日本の思想 第二巻 場と器―思想の記録と伝達』岩波書店 二〇一三年五月

〔宮澤賢治』二十六夜』再読―浄土教から法華世界への結節と『月天子』―』『日本仏教総合研究』第一一号（二〇一二年度号）日本仏教総合研究学会 二〇一三年五月

〔第一セッション 説話とメディア―媒介と作用―』『メディアとしての文字と説話文学史―矜持する和語、質疑応答』説話文学会編『説話から世界をどう解き明かすのか 説話文学会設立五〇周年記念シンポジウム「日本・韓国」の記録』笠間書院 二〇一三年七月

〔「国文学」のミレニアム―レトロブロスベクティブなデジタル元年』楊曉捷・小松和彦・荒木浩編『デジタル人文学のすすめ』勉誠出版 二〇一三年八月

●その他の執筆活動

〔学融合推進センター運営委員からのメッセージ』『学融合推進センターNews Letter』第一二号 総合研究大学院大学学融合推進センター 二〇一三年五月

〔書評 河東仁編『夢と幻視の宗教史 上』（リットン）』『週刊読書人』二〇一三年六月二八日号

磯前順一

● 著書

『どこにもいないあなたへ―恋愛と学問についてのエッセイ』秋山書店 二〇一三年五月

『闊の思考 他者・外部性・故郷』法政大学出版社 二〇一三年八月

● 論文

「アラブから近代日本を考える―複数の近代をめぐる―」『一神教学際研究 (JISMOR)』八 同志社大学一神教学際研究センター 二〇一三年三月

「複数性と排除…『他者なき他者』の世界を生きたるために」『東京大学宗教学年報』三〇 二〇一三年三月

「国民国家という幻想を越えるために」『福音と世界』二〇一三年一〇月号 新教出版社

「被災地に胎動する新たな宗教学性―『カフェ・デ・モンク』をめぐる―」『世界』二〇一三年一〇月号 No. 88 岩波書店

● その他の執筆活動

「書評 西川長夫『植民地主義の時代を生きて』」『週刊読書人』二〇一三年八月九日号

「特集・島蘭先生ご退官 安ずることなき精神―生涯一研究者であること」『東京大学宗教学年報』別冊三〇 二〇一三年八月

伊東貴之

● 論文

「中国近世思想脈絡中所見的欲望…調和与共生」中国社会科学院歴史研究所中国思想史研究室主办『中國哲學』第二十六輯 中国社会科学出版社 二〇一三年八月

● その他の執筆活動

「項目執筆『経世致用』他一一項目」編集代表 尾崎雄二郎・竺沙雅章・戸川芳郎『中国文化史大事典』大修館書店 二〇一三年四月

「書評『非日常という日常―「文革」の息吹と異邦人の「眼差し」』」『図書新聞』第三一〇六号 二〇一三年四月一三日号

稲賀繁美

●著書

「執筆協力」 「Okakura in the global Context」 「日本再発見」 「中国踏査旅行」 「ベンガル知識人たちとの交流」 「ミッション イン ボストン」 「英文著作にみる OKAKURA」 「天心のメディア戦略」 『別冊太陽 日本のこころ二〇九 岡倉天心 近代美術の師』 平凡社 二〇一三年六月

●論文

「クールベ《石割り》の軌跡——政治と芸術」 永井隆則編 『フランス近代美術史の現在…ニュー・アート・ヒストリー以後の視座から』 (初版第二刷) 三元社 二〇一三年四月

「観光案内に載らないバリ案内(中)(下)——日曜日と月曜日、たった二日で廻れる、知られざる街中の秘境」 『あいだ』 二〇二・二〇三号 (連載第九五・九六回) 二〇一三年四・五月

「非母語という類似餌(ルアー)には何が掛かるか」 郭南燕編 『バイリンガルな日本語文学—多言語多文化のあいだ』 三元社 二〇一三年六月

“Japanese Philosophers Go West: The Effect of Maritime Trips on Philosophy in Japan with Special Reference to the Case of Watsuji Tetsuro (1889-1960),” *Japan Review* No. 25, 2013.

「カタルーニャのジャポニスム——パロセロナ・カイシャ・フォーラムでの展覧会より(前)(後)」 『あいだ』 二〇六・二〇七号 (連載第九七・九八回) 二〇一三年八・九月

●その他の執筆活動

「多国籍化する専門書店への羨望 バリの新刊書店にみる昨今の事情——書店の現在を考える(1)」 『図書新聞』 第三〇二二号 (連載二二六) 二〇一三年五月

「なぜ台湾の誠品書店は元気がよいのか 日本の新刊書扱い大型書店に奮起を願う——書店の現在を考える(2)」 『図書新聞』 第三一一四号 (連載一三七) 二〇一三年六月

「美術伝授について…カセム・ズガリさんとの対話から」 『かみはま合気道』 二〇一三年度版第一五号 三重大学合気道部OB会 二〇一三年六月

「水族館を思い出してみて」『小論文』（再掲）代々木ゼミナール二〇一三年第一学期
 「韓国に比較文学の『辺境』を踏査する―国際比較文学会 第十九回ソウル大会（Aug. 15-21, 2010）の報告と反省」（再掲）『韓国比較文学会』
 第六〇号 二〇一三年六月

「洋書と和書の棲み分けを廃止しよう―外国書の売り上げ落ち込みに日本の病理を探る―書店の現在を考える（3）」『図書新聞』第
 三二一七号（連載一三八） 二〇一三年七月

「武術伝授について…カセム・ズガリさんとの対話から」（再掲）『赤門合気道』平成二五年度第五四号 東京大学合気道部赤門合気道倶楽部
 二〇一三年七月

「日文研×地球研 座談会 人文学がみる文化・社会・環境―たとえば『おっさんはなぜきれいな女の子が好きなのか』について（井上章一・阿
 部健一・鞍田崇と）」『地球研ニュース』No.3 二〇一三年七月

井上章一

●著書

『伊勢神宮と日本美』講談社学術文庫 二〇一三年四月

『性欲の研究―エロティック・アジア』（編著）平凡社 二〇一三年五月

●その他の執筆活動

「ゆたかな番組をささえるもの」辻一郎・音好宏監修『テレビの未来と可能性―関西からの発言―』大阪公立大学出版会 二〇一三年四月

「書評 村井康彦著『出雲と大和』」『週刊ポスト』二〇一三年四月五日号

「書評 エティエンヌ・バリリエ著『ピアニスト』」『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一三年四月一七日

「ラブホテルとシンデレラ城」『中央公論』二〇一三年五月号

「恐竜たちと伊勢神宮」『本』二〇一三年五月号 講談社

「書評 奈良岡聰智著『八月の砲声』を聞いた日本人」『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一三年五月八日

- 「対談 西のエッチ 東のエッチ (鹿島茂と)」 「対談 上海モダンの風俗事情―ソーブランドからチャイナドレスまで― (劉建輝と)」 「ハルビン紀行の日本人―大日本帝国の欲望と、裸になったロシアの女たち」 『乳』と『おっぱい』 『性欲の研究―エロティック・アジア』 平凡社 二〇一三年五月
- 「書評 森正人著『ハゲに悩む』」 『日本経済新聞』 (夕刊) 二〇一三年五月二九日
- 「書評 ニコラス・エヴァンズ著『危機言語』」 『週刊ポスト』 二〇一三年五月三一日号
- 「現代の建築家・一三 白井晟一―民衆的な、あまりに民衆的な」 『GA JAPAN』 122 二〇一三年五月
- 「書評 青山通著『ウルトラセブンが「音楽」を教えてくれた』」 『日本経済新聞』 (夕刊) 二〇一三年六月一九日
- 「日本語で書くということ―関西人の立場から」 郭南燕編『バイリンガルな日本語文学―多言語多文化のあいだ』 三元社 二〇一三年六月
- 「思想史と宗教史の、その裏側は―近代日本のキリスト教受容をめぐる」 刈部直・黒住真・佐藤弘夫・末木文美士編『岩波講座 日本の思想 第六巻 秩序と規範―「国家」のなりたち』 岩波書店 二〇一三年六月
- 「サンバの国に見られぬ日本の管理意識」 『中央公論』 二〇一三年七月号
- 「テラーニにみちびかれ」 『磯崎新建築論集 月報5』 岩波書店 二〇一三年七月
- 「書評 槇文彦・神谷宏治編著『丹下健三を語る』」 『日本経済新聞』 (夕刊) 二〇一三年七月一〇日
- 「京季行 祇園祭と夏 絢爛と質素 鮮やかな対比」 『読売新聞』 二〇一三年七月一日
- 「書評 吉松隆著『作曲は鳥のごとく』」 『週刊ポスト』 二〇一三年七月二二日号
- 「シンポジウム 伊勢へ七度…日本人の巡礼観」 (神崎宣武・ジョン・ブリン・高媛と) 『伝統文化』 No.48 平成二五年・夏号 二〇一三年七月
- 「対談 安土桃山時代は、本来、安土大坂時代のはずです。古墳時代にしても…… (樋口武男と)」 『週刊文春』 二〇一三年七月二五日号
- 「書評 小野清美著『アウトバーンとナチズム』」 『日本経済新聞』 (夕刊) 二〇一三年七月三一日
- 「日文研×地球研 座談会 人文学がみる文化・社会・環境―たとえば『おっさんはなぜきれいな女の子が好きなのか』について (稲賀繁美・阿部健一・鞍田崇と)」 『地球研ニュース』 No.43 二〇一三年七月
- 「現代の建築家・一四 村野藤吾―戦時をくぐり、マルクスを読みぬく」 『GA JAPAN』 123 二〇一三年七月

「解説」花房観音著『女坂』講談社文庫 二〇一三年八月

「豊の末路」『現代風俗』二〇六 二〇一三年八月

「書評」竹下節子著『戦士ジャンヌ・ダルクの炎上と復活』『日本経済新聞』（夕刊）二〇一三年八月二一日

「国家を性欲から考える ZINCI:BLUE 002 井上章一」株式会社グレイプス 二〇一三年八月

「現代の建築家・一五 吉田五十八―数寄屋は明るく、艶やかに」『GA JAPAN』124 二〇一三年九月

「京都人嫌いの、京大びいき」『コトバ』二〇一三年秋号 二〇一三年九月

「古書店の棚におかれた子供の夢」（再録）週刊朝日編集部編『忘れられない一冊』朝日新聞出版 二〇一三年九月

「書評」林浩平著『ブリティッシュ・ロック』『日本経済新聞』（夕刊）二〇一三年九月二一日

「書評」鈴木涼美著『AV女優』の社会学』『週刊ポスト』二〇一三年九月二〇・二七日合併号

「市井の好奇心にこそ光」『読売新聞』二〇一三年九月二三日

牛村 圭

●その他の執筆活動

「現代のことば」TOEFL推進という拝外思想』『京都新聞』（夕刊）五月一三日

「現代のことば」女王アリは空から』『京都新聞』（夕刊）六月二一日

榎本 渉

●論文

「アジアの中の建長寺―鎌倉時代の住持中の渡来僧の位置―」『禅文化』二二八号 二〇一三年四月

「元末明初の日元航路―兼及新発掘僧伝之紹介―」范金民・胡阿祥主編『江南地域文化的歴史演進文集』三聯書店 二〇一三年五月

郭 南燕

● 著書

『バイリンガルな日本語文学―多言語多文化のあいだ』三元社 二〇一三年六月

● 論文

「志賀直哉とラフカディオ・ハーン——文体上の影響に関する考察——」黄自進主編『東亜世界中的日本與台湾 東アジア世界における日本と台湾』中央研究院人文社会科学研究中心 二〇一三年七月

笠谷和比古

● 論文

「思想史と実体史との往還——丸山眞男理論の社会不適合説をめぐる議論に寄せて——」『日本思想史学』第四五号 二〇一三年九月

● その他の執筆活動

「近世の幕府と朝廷（一）徳川家康の征夷大将軍任官」『究』四月号（通巻第二五号）ミネルヴァ書房 二〇一三年四月

「近世の幕府と朝廷（二）京都と二条城」『究』五月号（通巻第二六号）ミネルヴァ書房 二〇一三年五月

「日だまりカフェ（上）東欧で盛んな日本学」『読売新聞』（夕刊） 二〇一三年五月二日

「日だまりカフェ（中）原点立ち戻り日露友好」『読売新聞』（夕刊） 二〇一三年五月九日

「日だまりカフェ（下）尖閣影響、中国の日本学も」『読売新聞』（夕刊） 二〇一三年五月一六日

「近世の幕府と朝廷（三）徳川和子の入内」『究』六月号（通巻第二七号）ミネルヴァ書房 二〇一三年六月

「近世の幕府と朝廷（四）後水尾天皇の二条城行幸」『究』七月号（通巻第二八号）ミネルヴァ書房 二〇一三年七月

「近世の幕府と朝廷（五）高仁親王即位問題」『究』八月号（通巻第二九号）ミネルヴァ書房 二〇一三年八月

「近世の幕府と朝廷（六）紫衣事件」『究』九月号（通巻第三〇号）ミネルヴァ書房 二〇一三年九月

倉本一宏

● 著書

『文春新書九一五 藤原道長の権力と欲望 「御堂閔白記」を読む』文藝春秋 二〇一三年五月

黄自進主編『東亜世界中の日本與台湾 東アジア世界における日本と台湾』（共著）中央研究院人文社会科学研究中心 二〇一三年七月

● その他の執筆活動

『御堂閔白記の普遍的価値』『朝日新聞』（夕刊） 二〇一三年六月二十六日

『撰関期古記録データベース』に「つづ」NICHIBUNKEN NEWSLETTER No. 87 国際日本文化研究センター 二〇一三年六月

「持統女帝の皇位継承構想―その破綻が生み出したもの」『やまとみち』 一二九号 JR東海 二〇一三年七月

『御堂閔白記』は何故にすごいのか』『文学界』 二〇一三年九月号 文藝春秋 二〇一三年八月

「ようこそ―歴史史料の世界へ 『御堂閔白記』』『社会科 21st』 文教堂 二〇一三年

フレデリック・クレインス

● その他の執筆活動

「文明史研究における外書コレクション——日本資料専門家欧州協会二〇一二年会議を振り返って」『日文研』 五一号 二〇一三年九月

小松和彦

● 著書

『鯨絵——民俗的想像力の世界——』（翻訳）岩波書店 二〇一三年六月

『日本怪異妖怪大事典』（監修）東京堂出版 二〇一三年七月

『デジタル人文学のすすめ』（楊曉捷・荒木浩と共編）勉誠出版 二〇一三年七月

● その他の執筆活動

「あすへの話題」(連載)『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一三年四月二日、四月九日、四月一六日、四月二三日、四月三〇日、五月七日、五月一四日、五月二一日、五月二八日、六月四日、六月一一日、六月一八日、六月二五日

「故山口昌男さんを追いかけて」『京都新聞』 二〇一三年四月五日

「日本人の忘れもの四二 妖怪文化」『京都新聞』 二〇一三年四月一四日

「日本的な「和」のあり方を考えるために」『Re』No.179 建築保全センター 二〇一三年七月

「平安京の陰陽道と安倍晴明」『歌舞伎座新開場柿茸落 九月花形歌舞伎』歌舞伎座宣伝部 二〇一三年九月

佐野真由子

●論文

「持続可能な外交をめざして―幕末期、欧米外交官の將軍拜謁儀礼をめぐる検討から―」『日本研究』第四八集 二〇一三年九月

●その他の執筆活動

「欧米外交官たちが見ていなかったもの―幕末の外交儀礼から考える」『爽快』第二六号 二〇一三年四月

「京都文化芸術コア・ネットワークの発足を寿ぐ」『京都文化芸術コア・ネットワーク 設立に当たったのメッセージ―趣意書に代えて』

KACN 二〇一三年七月

“Rutherford Alcock’s Audience with the Shōgun in 1860, and the Problems Implied.” *1st EAJS Japan Conference*, Sep. 2013.

白幡洋三郎

●その他の執筆活動

「富士山考 旅が生んだ富士山への思い」信濃毎日新聞他(共同通信配信) 二〇一三年七月一日他

「庭園史の『常識』―大名庭園の評価を通して」京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター編『庭園学講座二〇 日本庭園のモダンと

ポストモダン』二〇一三年九月

「ソフィア京都新聞文化会議 日本文化を根付かせた樁」京都新聞（朝刊）二〇一三年九月二十九日

末木文美士

●著書

『岩波講座 日本の思想』第一～六卷（薊部直・黒住真・佐藤弘夫と共編）二〇一三年四月～九月

『浄土思想論』春秋社 二〇一三年七月

●論文

「災害と日本の思想」『いわきから問う 東日本大震災』昌平齋出版会 二〇一三年六月

「身心の深みへ」薊部直・黒住真・佐藤弘夫・末木文美士編『岩波講座 日本の思想 第五卷 身と心——人間像の転変』岩波書店 二〇一三年九月

●その他の執筆活動

「資料編集 鈴木大拙英訳『碧巖録』関係資料」『松ヶ岡文庫研究年報』第二七号 財団法人松ヶ岡文庫 二〇一三年三月

「近代と宗教」（連載）『朝日新聞』（大阪本社版・夕刊）二〇一三年四月二三日、五月二七日、六月二四日、七月二九日、八月二六日、九月三日

「仏教思想の再検討（講演記録）」『衆會』一八 真宗大谷派教学研究所 二〇一三年六月

瀧井一博

●著書

『明治国家をつくった人びと』（講談社現代新書）講談社 二〇一三年六月

●その他の執筆活動

「政治学の古典を読む（三） 二〇の constitution バジョット（小松春雄訳）『イギリス憲政論』中公クラシックス、二〇一一年」『究』五月号

(通巻第二六号) ミネルヴァ書房 二〇一三年五月

「伊藤博文と United States」『本』二〇一三年七月号 講談社

「政治学の古典を読む(四) デマゴグとしての政治家 マックス・ヴェーバー(脇圭平訳)『職業としての政治』岩波文庫、一九八〇年」『究』八月号(通巻第二九号) ミネルヴァ書房 二〇一三年八月

戸部良一

●論文

「日本軍人の蒋介石観―陸軍支那通を中心として―」山田辰雄・松重充浩編著『蒋介石研究―政治・戦争・日本―』東方書店 二〇一三年四月

「日本軍人の蒋介石観」黄自進・潘光哲主編『蒋介石與現代中國的形塑 第一冊…領袖的淬鍊』中央研究院近代史研究所 二〇一三年九月

●その他の執筆活動

「マキアヴェリ『君主論』(二五一三年)―君主の持つべき特性と力とは」野中郁次郎編著『戰略論の名著―孫子、マキアヴェリから現代まで』(中公新書) 中央公論新社 二〇一三年四月

「リーダーシップシリーズ(第一回) 昭和の指導者―中曽根康弘」『鵬友』第三九巻第一号 二〇一三年五月

「書評 阿南友亮著『中国革命と軍隊』『国際政治』第一七三号 日本国際政治学会 二〇一三年六月

「文献紹介 中曽根康弘著『中曽根康弘が語る戦後日本外交史』『軍事史学』第四九巻第一号 二〇一三年六月

「解説」西浦進著『昭和戦争史の証言 日本陸軍終焉の真実』(日経ビジネス人文庫) 日本経済新聞社 二〇一三年七月

「リーダーシップシリーズ(第二回) 昭和の指導者―吉田茂」『鵬友』第三九巻第二号 二〇一三年七月

「書評 イアン・トール著『太平洋の試練』(上・下)』『日本経済新聞』二〇一三年七月二一日

「解説」森松俊夫著『大本営』吉川弘文館 二〇一三年七月

「山県有朋と長州閥人脈」『歴史読本』二〇一三年八月号

早川聞多

● 論文

“Who Were the Audiences for Shunga?”, *Japan Review* No. 26: Special Issue: *Shunga* Sex and Humor in Japanese art and literature, Edited by Andrew Gerstle and Timothy Clark, International Research Center for Japanese Studies, September 2013.

シモン・ブリーン

● 著書

Yasukuni, the War Dead and the Struggle for Japan's Past (editor), Oxford University Press, 2013 (Reprint of Hurst/Columbia University Press, 2008).

● 論文

『神都物語』—明治期の伊勢— 高木博志編 『近代日本の歴史都市 古都と城下町』 思文閣 二〇一三年八月

“Yasukuni Shrine: Ritual and Memory,” reprinted in Sven Saaler & Justin Aukema eds., *Course Reader 7: “The Politics of Memory in Japan and East Asia,”* *The Asia Pacific Journal: Japan Focus*, 2013.

● その他の執筆活動

「コメント 伊勢へ七度：日本人の巡礼観」（共著）『伝統文化』No. 48 平成二五年・夏号 二〇一三年七月

【編集】*Japan Review* No. 25, International Research Center for Japanese Studies, September 2013.

【編集】*Japan Review* No. 26: Special Issue: *Shunga* Sex and Humor in Japanese art and literature, International Research Center for Japanese Studies, September 2013.

細川周平

● 論文

“Shochiku Girls, Opera and 1920s Dōtonbori Jazz” (translated by Philip Flavin), in Hugh de Ferranti and Alison Tokita (eds.), *Music, Modernity and*

Locality in Prewar Japan: Osaka and Beyond, Ashgate, Surrey, 2013.

“The Swinging Phonograph in a Hot Teahouse: Sound Technology and the Emergence of the Jazz Community in Prewar Japan,” in Joseph D. Hankins and Carolyn S. Stevens (eds.), *Sound, Space and Society in Modern Japan*, Routledge, London and New York, 2014.

●その他の執筆活動

「日系移民アマゾンで俳句」『読売新聞』二〇一三年五月二〇日

「沖繩系ブラジル二世作家、山里アウグストの『空想解脱小説』」郭南燕編『バイリンガルな日本語文学―多言語多文化のあいだ』三元社 二〇一三年六月

「1Q68の長い長い余波」解説「竹田賢一著『地表に蠢く音楽ども』」月曜社 二〇一三年七月

「音楽評 AZUMI 山中一平『河内音頭あべのぼる一代記不常識』発売記念ライブ」『毎日新聞』（関西版・夕刊）二〇一三年七月一六日

「音楽評 アロージャズオーケストラ」『毎日新聞』（関西版・夕刊）二〇一三年八月二一日

松田利彦

●論文

「韓国駐劄軍参謀長 大谷喜久蔵와 韓国―大谷関係資料를 中心으로」정병욱・板垣竜太編『일기를 통해 본 전통과 근대, 식민지와 국가』소명출판 二〇一三年五月

「재일코리안과 뉴커머 문제」靑靑大学校在日코리안연구소編『재일코리안 디아스포라의 형성―이주와 정주를 중심으로』図書出版선인 二〇一三年六月

「帝国日本の政策連鎖―内務官僚の植民地への移入と『地方改良運動』」黄自進主編『東亞世界中的日本與台灣 東アジア世界における日本と台灣』中央研究院人文社会科学研究中心 二〇一三年七月

「韓国駐劄軍参謀長・大谷喜久蔵と乙巳保護条約締結前後の韓国」笹川紀勝・邊英浩監修、都時煥編著『國際共同研究 韓国強制併合一〇〇年 歴史と課題』明石書店 二〇一三年八月

山田奨治

● 著書

『日本怪異妖怪大事典』（常光徹・飯倉義之と共編）東京堂出版 二〇一三年七月

● 論文

「傑作はどこへ消えた？—デジタル複製による文化財の置換問題を考える」楊曉捷・小松和彦・荒木浩編『デジタル人文学のすすめ』勉誠出版 二〇一三年八月

● その他の執筆活動

「ライシャワー日本研究所での1年を終えて」*NICHIBUNKEN NEWSLETTER* No. 87 国際日本文化研究センター 二〇一三年六月

「妖怪データベースから妖怪事典へ」項目執筆 『狐』『狸』『妖怪の呼称』他「五件」小松和彦監修、常光徹・山田奨治・飯倉義之編『日本怪異妖怪大事典』東京堂出版 二〇一三年七月

マルクス・リュッターマン

● 論文

“Die Striche sind beisammen (gatten). Zur Mehrheitsfindung im mitalaterlichen Japan.” [Counting Brushstrokes (Gatten). Decision Making by Majority Rule in Medieval Japan, 合点 日本中世における多数決定について], Egon Flaig (Hg.) *Genesis und Dynamiken der Mehrheitsentscheidung*, München: Oldenbourg (Historisches Kolleg).

● その他の執筆活動

『当然』の陥井』『日文研』五〇号 国際日本文化研究センター 二〇一三年三月

劉建輝

● 著書

『垂洲概念史研究 第一輯』（中国語・孫江と共編）生活・読書・新知三聯書店 二〇一三年四月

●論文

「侮蔑、趣味、そして憧憬から脅威へ―近代日本知識人の中国表象」上垣外憲一編『一九三〇年代東アジアの文化交流』思文閣出版 二〇一三年五月

「満洲ロマンの文学的生成―『満洲浪漫』と『芸文志』同人の活動を中心に」石田仁志他編『アジア遊学一六七 戦間期東アジアの日本語文学』勉誠出版 二〇一三年八月

「中国開埠地…日本『近代』從這里開始」（中国語）楽黛雲・楊慧林編『比較文学與世界文学 第三期』北京大学出版社 二〇一三年八月

●その他の執筆活動

「日中の文化的理解―戦前から結ばれた強い絆」『産経新聞』（大阪版・夕刊）二〇一三年四月一八日

「対談 上海モダンの風俗事情―ソーブランドからチャイナドレスまで―（井上章一と）井上章一編『性欲の研究―エロティック・アジア』平凡社 二〇一三年五月

「張家口と近代日本」NICHIBUNKEN NEWSLETTER No. 87 国際日本文化研究センター 二〇一三年六月

「『帝国』史としての日本研究―日文研プロジェクトの試み」『日文研』五一号 二〇一三年九月